



発行人 会長 根崎 頼郎

編集 広報部会

### 夏休み子ども部会活動報告

## 「いっぱい楽しんで」

子ども部会では、小学校の夏休みに入って間もない7月30日水谷公民館ホールにて『こども体験教室』を開催しました。

今夏の未曾有の暑さに、出足が鈍ることも覚悟で福祉員一同準備しましたが、始まってみると徐々に参加者も増えて賑やかになりました。

絵手紙サークル「ぺんばる」さんのご指導のもと真剣に画題に取り組む親子さんや友達同士の間で、自分の意外な絵心に火がついた人もいたかもしれません。ビーズの色合いにこだわりながら、完成させていく子どもたち。松ぼっくりに白マーカーで雪を降らせビーズで飾り付けていくク

リスマストリー、フィンランドの伝統人形トントウ作り、2cm幅にカットした廃材段ボールをポンドで丸めて作る駒、画用紙とストローでバランスを取りながらのヒコキ作り、果ては新聞紙を折って貼って作る持ち帰り用の手提げ袋まで。涼しいホールでのゆったりとした時間の中で、いくつもの体験をしてくれた子どもたちや親子さんが多かったです。

午後には急に空が暗くなり、わか雨の危険性が高まって「早く帰って洗濯物を取り込まなげや！」と兄弟をせかせるパパの姿が、家庭内での協力が目に見えてほほえましかったです。しかし案の定「聞く耳持たず」で夢

中に遊ぶ子どもたちでした。「この暑さで遊び場所に困るので、このようなイベントはとても嬉しいです」と言って下さるママの言葉も我々福祉委員の励みになりました。

子ども部会は21名の福祉委員体制で、年間を通しての下校時見守りと夏休み体験教室に力を入れてきました。今年度は新たな事業として、秋の一日『親子グラウンドゴルフ大会』を追加企画しています。小学校の校庭いっぱいにはコースを作り、ステイックで球をゴールに進めていく競技です。本紙が発行される頃には既に開催済みのはずで、今後に繋がる成果が出ていることを期待しつつ準備を進めている昨今です。



製作風景



下校時の見守り風景



絵手紙作品 (下絵)

### 東みずほ台まつりに出店

地区社協の事業費は市社協からの交付金や還元金でまかなわれています。活動の充実を図るための自主財源の確保を目的に今年も、8月24日(土)に開催された東みずほ台まつりに出店しました。

地区社協の福祉委員からの提供品を販売し、13,010円の収益がありました。

当日は酷暑の上に、猛烈な雷雨が準備の途中で襲い担当した福祉委員は雨と闘いながら準備をしましたが、祭りの開催時間には雨も小降りになり、みなさん立ち寄ってくれていました。



### 共同募金にご協力を

今年も10月1日から令和6年度共同募金(赤い羽根募金・歳末助け合い募金)がはじまりました。みずほ台小地区社協も1日(火)に鶴瀬駅東口の駅頭で募金活動を行いました。



### ちよつと豆知識

#### 地区社協について

富士見市内の地区社会福祉協議会は、地域住民が中心となってその地域に即した福祉課題(ニーズ)を発見し、解決に向

#### 福祉委員とは

地区社協に参加し、諸事業の企画・実践などの活動をする方です。

町会や民生委員児童委員協議会、老人会、育成会などの団体に所属し選出された方や、個人の方もいます。

自分の住んでいる身近な地域でのボランティア活動へ興味のある方は、それぞれの地区社会福祉協議会、または富士見市社会福祉協議会へご相談ください。

けて取り組むことができるよう、町会をはじめとする地域の団体、学校、企業、商店などと協力しながら福祉活動を進めています。概ね小学校区を単位とし、10の地区社会福祉協議会(地区社協)が設置されています。



### 編集後記

先日、市民福祉活動センター「ぱれっと」で開催された地区社協連絡会新任福祉委員研修に参加しました。今年度から、前任の方より広報部会の委員を引き継ぐことになり、福祉委員の活動の右も左もわからない状態でしたので、有難い機会でした。これまで社会福祉関係の活動にはほとんど関わったことはありませんでした。会場の「ぱれっと」も建物の前はよく通っても、中へ入るのは初めてでした。これまで漠然と社会福祉というものをとらえており、あまり自分のこととして考えたことがなかったです。説明により、社会福祉協議会がどのような趣旨で設立されたのかということが、おぼろげながら理解できました。また、それぞれがそれぞれの地区社協がどのような活動をしているのかが、なんとなくわかりました。地域福祉の推進を担う地区社協の福祉委員として、①見守る(気づく)、②知らせる、③つながる、④ひろげる、という4つの機能の一部分でもお役に立てればという感想を持ちました。(S記)